

INFLUENZA QUESTION & ANSWER

ノイラミニダーゼ阻害薬とバロキサビル マルボキシルの違いを教えてください。

佐藤晶論

福島県立医科大学医学部小児科学講座講師

現在、日本ではインフルエンザ患者に対しては、ノイラミニダーゼ(NA)阻害薬とキャップ依存性エンドヌクレアーゼ(CEN)阻害薬が投与可能です。前者には、経口薬であるオセルタミビル、吸入薬であるザナミビルとラニナミビル、そして唯一の点滴静注薬であるペラミビルがあります。NA阻害薬は、ウイルス生活環の最終段階である仔ウイルスが感染細胞から放出される過程(図1)を阻害する薬剤ですので、いったんウイルスが細胞に感

染すると仔ウイルスが複製されるためウイルス量は増加しますが、それ以降のウイルス量の増加は抑制されます。

一方、CEN阻害薬であるバロキサビル マルボキシル(BXM)は、ウイルスRNAからmRNAへの転写を阻害し(図1)、最終的にはウイルス蛋白合成を阻害する薬剤です。そのためBXMを投与するとNA阻害薬と比較して早期にウイルス量を有意に減少させることができます¹⁾。BXM投与群とオセルタミビル投与群との間で臨

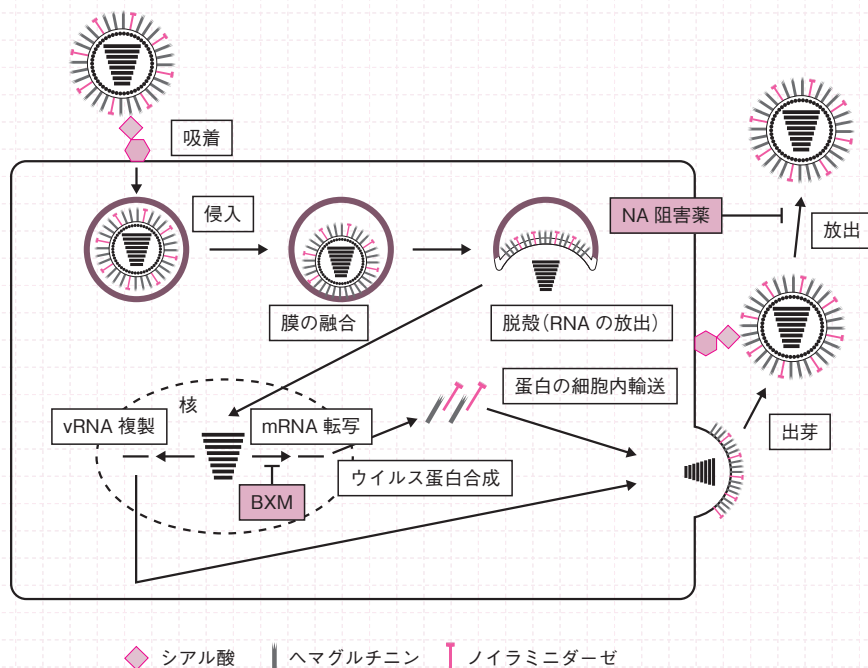


図1 インフルエンザウイルスの生活環と抗インフルエンザ薬の阻害機序

BXM: バロキサビル マルボキシル.

NA: ノイラミニダーゼ.

Key Words ▶ インフルエンザ ノイラミニダーゼ阻害薬 バロキサビル マルボキシル